



骨粗鬆症リエゾンサービス、骨折リエゾンサービスを立ち上げました。

整形外科 主任部長 宮本礼人

脆弱性骨折の代表的な疾患である大腿骨近位部骨折は、全国では年間約20万人の方が発症されており、高齢化に伴い患者数は、今後さらに増加すると推計されています。

当院においても、大腿骨頸部・転子部骨折を受傷される患者さんは、2020年度には、137名にのぼり、多くの患者さんが治療に伴う入院生活を余儀なくされています。おこな転倒・骨折の要因には骨粗鬆症による骨密度の低下や骨質の悪化により、骨の強度が低下するためとされています。高齢化社会が加速していく中で、そうした患者さんに骨折を予防し、骨の健康を維持することにより再骨折を防止するために、私たちは、**骨粗鬆症リエゾンサービス (OLS: Osteoporosis Liaison Service)** **骨折リエゾンサービス (FLS: Fracture Liaison Service)** を立ち上げ、中でも一度脆弱性骨折を起こした患者さんの二次骨折を予防（骨折リエゾンサービス）することに重点をおいて活動していく予定です。

こうしたサービスは、「院内の様々な職種が連携しながら行う骨粗鬆症の予防と改善および骨折防止のための取り組み」であり、骨粗鬆症の啓発、治療開始率や治療継続率の向上、再骨折の予防と治療を、かかりつけ医の先生方とともに連携して行うシステムです。骨粗鬆症の治療継続には循環型の地域医療連携が重要とされています。当院では骨折により入院された患者様に対し適切な診断と初期治療を行い、退院時には開業医の先生方に日常生活の中での処方継続、経過観察をいただくことを想定しています。シームレスに治療を継続するには先生方のご協力がなければ決してできることはありません。ぜひともご協力よろしくお願い申し上げます。

ボランティア「白鷺」通信

～中庭イベント～

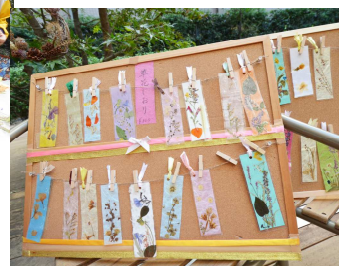
医療社会活動室長 井上 より子

●特定非営利活動法人 薬（ひこばえ）との地域コラボ●

障害のある方の社会参加を応援する目的で、手作りマスクや押し花しおりの展示と実演、体験コーナーを設け交流を深めました。施設の方や地域の方に「皆で作ると楽しいですね」と親しんでいただきました。



押し花しおり作り
体験中!



●外来患者さんに観葉植物150鉢をクリスマスプレゼント●

昔から、お花見や紅葉狩りで自然を愛でて楽しんできましたが、ボランティアさん達が育てた観葉植物は「自宅に居ながら一年中自然に触れることができる」と喜ばれました。

★プレゼントした植物の花言葉★
アイビー【永遠の信頼】
オリヅルラン【守り抜く愛】
カネノナルキ【幸運を招く】



今後も中庭を活用して、ボランティアさんと共に地域の方に喜んでいただける取り組みに努めてまいります。